

事業者排出量削減報告書

| | | | | | | | | | |
|---------------------------|--|---|--|--------------------------|--------------------------------|--------------------------|----------------|-----------|----------|
| 住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） | 〒600-8688 京都市下京区四条通鳥丸東入 | | | | | | | | |
| 氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名） | 宝酒造株式会社 代表取締役社長 大宮 久 | | | | | | | | |
| 事業者の主たる業種 | 酒類・食品製造販売業 | | | | | | | | |
| 該当する事業者要件 | <input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上）） | | | | | | | | |
| 計画期間 | 平成20年4月 ～ 平成23年3月 | | | | | | | | |
| 基本方針 | 中期経営計画と連動したISO環境目標を設定してCO2削減等の環境活動を推進する。 | | | | | | | | |
| 推進体制 | ISO14001システムにより全社および各サイトごとに責任者をおき環境活動を推進。 | | | | | | | | |
| | 環境マネジメントシステム名称 | ISO14001 | | | | | | | |
| | 適用範囲 | 本社、伏見工場、京滋北陸支社 | | | | | | | |
| 取得年月日 | 2005年1月宝グループ統合取得 | | | | | | | | |
| 年度ごとの具体的な取組及び措置の状況 | 年度 | 設備、対象、工程等 | 措置内容 | | | | | | |
| | 平成22年度 | 伏見工場 | 加熱殺菌装置等の保温施工による、放熱ロスの低減。廃温水、熱回収装置導入による蒸気量削減。省エネ型照明への更新による、電力使用量低減。 | | | | | | |
| | 平成20-22年度 | 本社 | 時間外冷暖房の削減、不要な蛍光灯の撤去など照明の適正化を行う。 | | | | | | |
| | 平成20-22年度 | 京滋北陸支社 | アイドリングストップ等省エネ運転、公共交通機関の利用によるセールカーからのCO2の削減 | | | | | | |
| 温室効果ガスの排出量等 | 排出区分 | 基準年度（実績） （ ）年度 （二酸化炭素換算） | 目標年度（計画） （ ）年度 （二酸化炭素換算） | 増減率 （計画） | 報告年度（実績） （ ）年度 （二酸化炭素換算） | 増減率 （実績） | | | |
| | A 事業所等排出区分 | 15,300.0 t | 15,419.2 t | 0.8 % | 14,110.6 t | -7.8 % | | | |
| | B 輸送車両排出区分 | t | t | % | t | % | | | |
| | C その他排出区分 | 100.1 t | 100.1 t | 0.0 % | 70.6 t | -29.5 % | | | |
| | 排出合計 | *1 15,400.1 t | *2 15,519.3 t | 0.8 % | *4 14,181.2 t | -7.9 % | | | |
| 実績に対する自己評価 | 不要な蛍光灯の撤去、省エネ型照明への更新、時間外冷暖房の削減、サーバ室の外部移管等によって、オフィスの電気使用量が削減されたことなどにより、目標年度の計画値をクリアする結果となった。 | | | | | | | | |
| 原単位当たりの温室効果ガス排出量等 | 用途区分 | 原単位の指標 | 基準年度（実績） | 目標年度（計画） | 増減率（計画） | 報告年度（実績） | 増減率（実績） | | |
| | 伏見工場 | 二酸化炭素換算 （生産数量） | 13.800 t/百KL | 13.300 t/百KL | -3.6 % | 12.250 t/百KL | -11.2 % | | |
| | 本社 | 二酸化炭素換算 （延床面積） | 75.100 kg/m ² | 73.000 kg/m ² | -2.8 % | 46.480 kg/m ² | -38.1 % | | |
| | 京滋北陸支社 | 二酸化炭素換算 （売上金額） | 12.100 kg/百万円 | 11.700 kg/百万円 | -3.3 % | 9.560 kg/百万円 | -21.0 % | | |
| | 実績に対する自己評価 | 不要な蛍光灯の撤去、省エネ型照明への更新、時間外冷暖房の削減、サーバ室の外部移管等によって、オフィスの電気使用量が削減されたことなどにより、目標年度の計画値をクリアする結果となった。 | | | | | | | |
| その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等 | 対策等の区分 | 目標年度（計画） | | | | 報告年度（実績） | | | |
| | | 取組量等 | | （二酸化炭素換算） | | 取組量等 | | （二酸化炭素換算） | |
| | 森林の保全及び整備 | （整備面積） | ha | （吸収量） | t | （整備面積） | ha | （吸収量） | t |
| | 府内産の木材の利用 | （利用量） | m ³ | （削減量） | t | （利用量） | m ³ | （削減量） | t |
| | 自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給 | （発電量） | kwh | （削減量） | t | （発電量） | kwh | （削減量） | t |
| | | （熱供給量） | GJ | （削減量） | t | （熱供給量） | GJ | （削減量） | t |
| | グリーン電力の購入 | （購入量） | kwh | （削減量） | t | （購入量） | kwh | （削減量） | t |
| | 家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入 | （購入量） | t | （削減量） | t | （購入量） | t | （削減量） | 2.5 t |
| | 削減量等合計 | | | | *3 t | | | | *5 2.5 t |
| | 差引排出量 （排出合計-削減等合計） | 基準年度（実績） | 目標年度（計画） | 増減率（計画） | 報告年度（実績） | 増減率（実績） | | | |
| | *1 15,400.1 t | (*2)-(*3) 15,519.3 t | 0.8 % | (*4)-(*5) 14,178.7 t | -7.9 % | | | | |
| 地球温暖化対策に資する社会貢献活動 | ペロタクシー等のCO2削減に貢献する京都発のNP0への協賛等の支援を行った。 | | | | | | | | |
| 特記事項 | 京都府エコポイントモデル事業に協力した。カーボンクレジット10t購入（08年度）し、CSR報告書、リサイクル啓発冊子の印刷時の電気使用分として2.5t消費した。 | | | | | | | | |

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。
 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。
 6 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達採用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。